磯津通信

磯津環境学校
編集・発行
萩森　繁樹
〒510-0863
磯津南町2839
野田之一さん気付

今年の連凧揚げの一コマから

生きてきて、今

写真の中の子どもに会いたくて

四日市公害訴訟判決（1972. 7. 24）の20周年を記念した写真集があります。苦しむ男性患者の大写しの写真の左に「肺活量調査をする塩浜小学校の児童」という写真があります。（同写真集p19、右写真）

「この子なら知ってる、ヒデくんや」というHさんに連れて頂いてTさん宅を訪ねました。その方は昭和41年生まれ、もう47歳になってみえました。お父さん（87歳）は今もパソコンされる元気さ。お母さんは以前お家でどら焼き（大判焼き）屋をしてみえましたが、去年急に亡くなられました。お二人から当時のお話しを伺いました。お家は近所が公害裁判原告の藤田一雄さん、石田喜知松さん、磯津のど真ん中辺りです。

どれくらい苦しかったの？

寝るのはいつもうつ伏せばかりでした。布団を丸めてうずくまるようにすると息をしにくいのが楽になるような気がした。小学校3，4年頃になるとカルテは増えて、1cm以上になりました。よく休んでいました。体育も休みました。夜はゼエゼエしょっちゅう発作が出ると、吸入器に薬を入れて、その蒸気が苦かったこと。いつから病院行かんでええようになったか覚えていないけど、その後は大丈夫です。

お母さんが生きてみえたら

ひどかったのは3，4歳ごろだそうです。お母さんから発作が起きると自転車でおばれて（背負われて）塩浜病院にとんでいった話を聞いたそうです。「おふくろが生きていたらいっぱい話したいことあったやろな」とヒデくん。苦労をかけた思いがにじみます。お父さんからも「とゆ（とい）」がヘドロでいっぱいになった話や北側がひどかったこと、冬場がえらい（大変な）話など伺いました。

その後、塩浜中学校に進学した頃のアルバムも見せていただきました。生徒会長をして真ん中に座っているヒデくんがそこにいました。

《 連絡・情報提供先　090-4269-0965　hagi1922@tcp-ip.or.jp 磯津環境学校情報室 》